

わかし す まち 私が住んだ街

URL : https://youtu.be/maTMzdkv_3U

こんかい わかし す まち まな にほんご べんきょう
今回は「私が住んだ街」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には " ふりがな " があり
ます。
こうはん すこ はや かんじ
後半は少しだけ速くなり、漢字に " ふりがな " はありません。
がくしゅう やくだ
学習にお役立てください。

わかし ■私のこと

わかし なまえ もりた さんじゅうだい かいしやいん わかし はたら かいしや にほん ぜんこく
私の名前は森田りょうです。三十代の会社員です。私の働く会社では日本全国
しゅっしょう てんきん わかし すうねん ほっかいどう かんさい きゅうしゅう
に出張や転勤があります。私はこの数年で、北海道や関西、九州など、いろい
ろな ちいき い き はじ ばしょ い とち くうき ひと
ろな地域を行き来しました。初めての場所に行くたびに、その土地の空気や人
はな かた き にほん なか ぶんか ちが
の話し方がちがうことに気づきます。日本の中にも、たくさんの文化の違いが
あると感じます。

わかし しごと みせ かいしや しょうひん しょうかい そうだん えい
私の仕事は、お店や会社をまわって商品を紹介したり、相談にのったりする営
ぎょう しごと まいにち わかし あ
業の仕事です。毎日いそがしく、スケジュールを合わせるのがたいへんなこと
もあります。でも、いろいろな ひと はな たの かん
し とち しごと とお すこ かお
す。知らない土地でも、仕事を通して少しずつ顔なじみがふえていくのがうれ
しいです。

しゅっしょう てんきん おお せいかつ めん にもつ あたら
出張や転勤の多い生活はたいへんな面もあります。荷物をまとめたり、新しい
みち おぼ わかし せいかつ
道を覚えたりしなければなりません。でも私はこの生活がきらいではありません。
まぢ い じぶん おお たの
いろいろな街に行けることが、自分にとって大きな楽しみだからです。

わかし しゅみ しゃしん と も で まち ふうけい
私の趣味は写真を撮ることです。カメラを持って出かけると、その街の風景を
み あさ えきまえ よる しょうてんがい うみ みち
ゆっくり見ることができます。朝の駅前や、夜の商店街、海のそばの道など、
ばしょ いろ ひかり しゃしん みかえ くうき
場所ごとにちがう色や光があります。写真を見返すと、「あのときの空気はこ
んなだったな」と思い出すことができます。

仕事しごとはいそがしいですが、日本にほんのいろいろな街まちを見て、人ひとと出会であえることはとても貴重きちょうだと思おもいます。

■私わたしが生まれ育うった街まち

私わたしが生まれ育うったのは、東京とうきょう都との西にしにある国分寺こくぶんじという街まちです。新宿しんじゅくまで電車でんしゃで30分さんじゅうぶんほどの場所ばしょにあります。駅えきを少し離はなれると静しずかな住宅街じゅうたくがいが広がひろっています。都会とかいの便利べんりさと、落ち着おいた雰囲気ふんいきの両方りょうほうがあるとこが、この街まちの好きすなところところです。

駅えきのまわりには昔むかしからの商店街しょうてんがいがあり、パン屋やや八百屋やおや、文房具屋ぶんぼうぐなどが並ならんでいます。放課後ほうかごになると、学生がくせいや子こどもたちの声こえでにぎやかになります。私わたしも小学生しょうがくせいのころは、友だちと駄菓子だかしを買かって公園こうえんで食たべたり、川かわの近くちかで虫むしをとったりして遊あそびました。春はるになると、川かわぞいの桜さくらがいっせいに咲さき、家族かぞくとお弁当べんとうを持もって花見はなみをするのが毎年まいとしの楽たのしみでした。

夏なつは夕方ゆうがたになるとヒグラシこえの声きが聞こえ、秋あきには商店街しょうてんがいのお祭りまつで太鼓たいこの音おとが響ひびきます。冬ふゆの朝あさは空くう気がすんでいて、駅えきまで歩あるく道みちの空そらがとてもきれいでした。季節きせつが変かわるたび、街まちの色いろやにおいすこが少すこしずつ変わかります。私わたしはそんな小ちいさな変へん化かを見みつけるのが好きすでした。

高校こうこう生せいのころ、駅えきの近くちかのカメラ屋やで初はじめて自じ分のカメラぶぶんを買かいました。それから写真しやしんを撮とることが私わたしの趣しゅみ味みになりました。通学つうがくの途と中ちゅうで見みつけた夕焼ゆうやけや、商店街しょうてんがいのシャッターしゅんかんがおりる瞬間しゅんかんなど、何気なにげない日常にちじょうの風景ふうけいを撮とるのが好きすでした。

都会とかいの中なかにも、人ひとのあたたかさや自然しぜんのぬくもりがあることを、この街まちが教おしえてくれました。今いまでも実家じっかに帰かえるとき、駅えきのホームたに立たっただけで安心あんしんします。私わたしにとって国分寺こくぶんじは、どんとんなに遠いくへ行たいせつっても大切たいせつなふるさとです。

■北きたの街まち・札幌さっぽろ

最初さいしよの転勤てんきんは、北海道ほっかいどうの札幌さっぽろでした。東京とうきょうで育そだった私わたしは、雪ゆきの多い場所おおに住すむのは初はじめてでした。飛行機ひこうきをおりたとき、冷つめたい空くう気が顔かおにあたおもって、思おもわず息いきを止とめてしまいました。冬ふゆの札幌さっぽろは、空くう気がとてもきれいで、夜よるになると雪ゆきが光ひかって見みえます。街まちのあかりが雪ゆきにうつり、まるで白しろい世界せかいの中なかにいますように感じかんてました。

さいしよ ゆき なか せいかつ あさ ゆき そと
最初のころは、雪の中での生活にとまどいました。朝は雪かきをしないと外に
で 出られません。かいしゃ い いくまに あし なんと ころ
会社に行くまでに足がぬれて、何度もすべって転びそうになり
ました。みち ある
道がこおると歩くのもたいへんです。でも、そんなとき近所の人が
「き きをつけてね」と ことえ 声をかけてくれました。そのひとことがとてもあたたかく
かん 感じました。

さっぽろ ひと さむ なか あか しんせつ ゆき ひ
札幌の人たちは、寒さの中でも明るくて親切です。スーパーで「これ、雪の日
にいいですよ」と ぼうすい 防水スプレーをすすめてくれた てんいん 店員さんもいました。道でこ
まっていると、すぐにだれかが手をはなしてくれます。私はそのやさしさに、心
が あたたまりました。さむ ばしょ ひと 寒い場所ほど、人のぬくもりを感じるのかもしれません。

きゅうじつ も まち ある しろ ゆき あお そら
休日には、カメラを持って街を歩きました。白い雪と青い空のコントラストが
うつく 美しく、どこを見ても写真に仕上がります。おおどおり こうえん ゆき 大通公園では雪まつりの準備が
すす おお ゆき ぞう なら すす 進み、大きな雪の像が並んでいました。夜のライトに照らされた雪は、まるで
ひか きれいな風景でした。

さっぽろ せいかつ さいしよ したい たの か ふゆ
札幌での生活は、最初はたいへんでしたが、次第に楽しみに変わりました。冬
の寒さの中で、ひと 人のやさしさや しぜん 自然の美しさに出会えたからです。

■ こと きょうと 古都・京都

さっぽろ せいかつ すこ お つ つぎ てんきん はなし い さき きょう
札幌での生活が少し落ち着いたころ、次の転勤の話がありました。行き先は京
と 都でした。きょうと かんこう い じっさい す はじ
京都には観光で行ったことがありますが、実際に住むのは初めて
でした。ふる てら のこ きょうと さっぽろ ふんいき
古いお寺や町並みが残る京都は、札幌とはまったくちがう雰囲気です。
くうき ひと はな かた しず
空気も人の話し方も、ゆっくりしていて静かでした。

きょうと せいかつ はじ かん みせ ひと
京都での生活が始まったとき、まず感じたのは「ことば」でした。お店の人が
「おおきに（ありがとう）」と えがお い いみ
笑顔で言ってくれたとき、意味はわからなくても
きも つた ぎょうと ひと れいぎ たいせつ
気持ち伝わりました。京都の人たちは礼儀を大切にします。あいさつや
ことば き つか さいしよ すこ きんちょう はな
言葉づかいにも気を使うので、最初のころは少し緊張しました。話しかけるタ
い밍を まちがえたくないと思い、何度も ことば かんが はな
言葉を考えてから話しました。

すこ せいかつ な きょうと ひと おも み
しかし、少しずつ生活に慣れてくると、京都の人たちの思いやりが見えてきま
した。おとなしいように見えて、実はとてもあたたかいのです。きんじょ かた
近所の方が
さむ こえ
「寒いですね」と ことえ 声をかけてくれたり、おすそわけの わがし とど
しず かんけい なか 静かな関係の中に、やさしい心があることを知りました。

やす ひ も ちい るじ ある ふる き いえ いしだたみ みち
休みの日は、カメラを持って小さな路地を歩きました。古い木の家や石畳の道
には、なが じかん なが かん はる さくら さ まちぜんたい あか
には、長い時間の流れを感じます。春になると桜が咲き、町全体が明るくなり
ます。なつ ぎおんまつり おと ぎ あき こうよう いろ ふゆ あさ しず たら
ます。夏は祇園祭の音が聞こえ、秋には紅葉が色づきます。冬の朝、静かな寺
の庭に雪がつもる風景も美しく、思わずシャッターを押しました。

きょうと ばしょ こころ お つ くうかん たいせつ ひと おお
京都には、にぎやかな場所よりも、心が落ち着く空間を大切にする人が多いと
感じました。

■ 南の街・福岡

きょうと せいかつ つぎ てんきん き い さき きゅうしゅう
京都での生活にもなれてきたころ、次の転勤が決まりました。行き先は九州の
福岡でした。今度は南の街です。京都の静かな雰囲気とはちがって、福岡はに
ぎやかでげんき まち き くうこう つ くうき すこ
ぎやかで元気な街だと聞いていました。空港に着いたとき、空気が少しあたた
かく、どこかゆったりした気分になりました。

ふくおか ひと あか した はじ い みせ
福岡の人たちは、とにかく明るくて親しみやすいです。初めて行ったお店でも、
「どこから来たか？」と気軽に声をかけてくれました。最初はそのテンポの早
さにおどろきましたが、話しているうちにすぐに打ちとけられるのが福岡のす
ごいところ。しよくば しょう くら しょう じかん た もの はなし
職場でも、みんながよく笑い、休けい時間には食べ物の話で
盛り上がります。京都では言葉を選びながら話すことが多かったですが、福岡
ではしぜん わら かいわ
では自然に笑いながら会話が出来ます。

ふくおか た もの めんたい
福岡といえば、おいしい食べ物がたくさんあります。とんこつラーメンや明太
子はもちろん、やたい た や にんぎ わたし しごと お
屋台で食べるおでんや焼きとりも人気です。私は仕事が終わった
あと、かわ ちか やたい い すわ ひと はな
よく川の近くの屋台に行きました。となりに座った人と話しているう
ちに、いつのまにか友だちになっていることもあります。見知らぬ人でも、気
づけば「また会おうね」と言ってくれるのが、福岡らしいあたたかさです。

きゅうじつ も みなと しじょう ある あさ しじょう さかな う ひと
休日にはカメラを持って、港や市場を歩きました。朝の市場では魚を売る人の
げんき こえ とお ひる ゆうがた うみ
元気な声がひびき、通りにはおいしそうなおいが広がります。夕方には海の
うえ ゆうひ お あか そら さつぽろ しる せかい きょう
上に夕日が落ち、赤くそまった空がとてもきれいでした。札幌の白い世界、京
都のしず まち な ふくおか あか くうき まち
都の静かな街並み、そして福岡の明るい空気。それぞれの街に、まったくちが
う魅力があります。

ふくおか せいかつ たの まいにち ひと はな
福岡での生活は、にぎやかで楽しい毎日でした。人と話すことでエネルギーを
もらい、わら こころ かる ふくおか で
もらい、笑うことで心が軽くなりました。福岡を出るとき、たくさんの人が
「またおいで」と言ってくれました。その言葉が今でも心に残っています。

■^{まち}街ごと^{にほん}にちがう日本

^{わたし}私はこれまで、^{さっぽろ}札幌・^{きょうと}京都・^{ふくおか}福岡という^{みつ}三つの^{まち}街で^く暮らしてきました。北^{きた}から南^{みなみ}まで、日本^{にほん}のいろいろな^{ちいき}地域^みを見てきて感じたのは、「同じ^{おな}国^{くに}でも、街ごと^{まち}に人^{ひと}のようすや考え^{かんが}方がちがう^{かた}」ということです。そしてもう一つ、「どんな^{ばしょ}場所^{ばしょ}にもやさしさがある」ということです。

^{さっぽろ}札幌では、寒^{さむ}さの中で人^{なか}が助け合^{ひと}う姿^{たす}を見^あました。雪^{ゆき}の^ひ日に手^てを貸^かしてくれる人^{ひと}や、「気^きをつけてね」と声^{こえ}をかけてくれる人^{ひと}が多く、寒^{さむ}い場所^{ばしょ}ほど人^{ひと}のぬくもりが強く感じ^{つよ}られました。自然^{しぜん}とともに生^いきる人^{ひと}たちのたくましさを知^しりました。

^{きょうと}京都では、人^{ひと}との距離^{きょり}を大切^{たいせつ}にする文化^{ぶんか}にふれました。静^{しず}かに見守^{みまも}るようなやさしさがあり、すぐ^{ことば}に言葉^{ことば}にしなくても気持^{きも}ちが伝^{つた}わる関係^{かんけい}がありました。京都^{きょうと}の人^{ひと}たちは、相手^{あいて}の立場^{たちば}を考え^{かんが}ながら行^{こうどう}動^{どう}します。その心づかいの細^{こま}かさに、日本^{にほん}の伝統^{でんとう}の深^{ふか}さを感じ^{かん}しました。

^{ふくおか}福岡では、まったくちがうタイプ^{であ}のあたたかさに出^し会^{かい}いました。知らない人^{ひと}でも、気軽^{きが}に話^{はな}しかけてくれる明^{あか}るさがあります。にぎやかで元氣^{げんき}な人^{ひと}が多く、笑い^{わら}いながら毎日^{まいにち}を過^すぎしているように見^みえました。会話^{かいわ}が多く、つながり^{たい}を大切^{たい}にする文化^{ぶんか}が根づいていて感じ^{かん}しました。

^{みつ}三つの^{まち}街をくらべると、気候^{きこう}、方言^{ほうげん}、食べ物^た、生活^{もの}のリズムなど、すべてが少^{せいかつ}しずつちがいます。でも、どこにも共通^{きょうつう}していたのは、人^{ひと}のあたたかさです。はじめての土地^{とち}に行^いっても、だれかが声^{こえ}をかけてくれたり、手^てを差^さしのべてくれたりしました。日本^{にほん}の人^{ひと}たちは、見^みえないところ^{ささ}で支^あえ合^あう力^{ちから}を持^もっていると思^{おも}います。

^{てんきん}転勤^{とお}を通して、私^{わたし}は「日本^{にほん}は一つの国^{くに}だけれど、多く^{おお}の小さな世界^{ちい}でできている^{せかい}」と感じ^{かん}しました。

■新しい街への出発

福岡での生活が落ち着いてきたころ、また新しい転勤の話がありました。今度の行き先は、まだ行ったことのない地方の小さな街です。転勤の知らせを聞いたとき、前のような不安な気持ちはあまりありませんでした。それよりも、「今度はどんな人に出会えるだろう」という楽しみのほうが大きくなっていました。

荷物をまとめながら、これまで住んだ街のことを思い出しました。札幌の白い雪、京都の静かな寺、福岡のにぎやかな屋台。

どの街にも、それぞれの季節の色と人のぬくもりがありました。転勤をくり返すうちに、いつのまにか「引っこすこと」が楽しみになっている自分に気づきました。新しい場所へ行くことが、少しずつ自分の成長につながっていると感じます。

転勤のたびに、私はカメラを持って新しい街を歩きます。最初の週末には、駅の近くや公園、商店街をゆっくり見てまわります。写真を撮ることで、その街の雰囲気を感じることが出来ます。人の声やにおい、光の色。カメラの中に入っているものは、どれもその街でしか見られない景色です。

新しい土地での生活は、きっとまた大変なこともあります。知らない道、初めての人、ちがう方言。でも私は、どんな場所でもきっと楽しいことを見つけられると思っています。これまでの経験が、私にその自信をくれました。どんな街でも、人のやさしさは同じです。小さなあいさつや笑顔が、新しい生活を少しずつ明るくしてくれます。

転勤の生活は、まるで旅のようです。行く先々で出会う人や風景が、私の中に残っていきます。これからも、カメラを持って新しい街を歩き、自分の目で日本のいろいろな姿を見ていきたいです。旅のような毎日の中で、私はまた、新しい自分を見つけたいと思います。

「私が住んだ街」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。

それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

